

タイトル	学部	授業名（主たる教科領域）	執筆者
ひもをひっぱろう ～ながい・みじかい～	小	グループ (算数)	井本 露野

1. ねらい

- ・紐を引っ張ることを楽しみながら、“長い・短い”にふれる。

2. 児童の実態

ゆりグループの児童は小学部2、3年で、新版 K 式的全領域でおよそ2歳5か月～2歳9か月の児童3名である。3名の児童は大小の概念は理解しているが、長短については2名は不確か、1名は分かりかけているという実態である。

3. 活動内容

(1) A 絵本『ながい ながい』

この絵本は女の子が友達のへびに会いに行くために歩いていると思っていたら、実は長い蛇の上を歩いていたという絵本である。絵本から“ながい”というイメージをよリモてるようにするために、教師が絵本を作り変えて読み聞かせを行った。

B 絵本『みじかい みじかい』

A の内容と同じもので、蛇の長さが短くなるように教師が制作した。



(2) ひもを引っ張ろう

2つの箱から紐を1本ずつ引っ張り、どちらが長いか比べた。引っ張る中で“ながい”という感覚をつかめるように、一本は2m以上とすぐには引っ張り出せないようにした。また、もう一本の紐は30cm位と短くし、長さに大きな違いをつけた。

授業の初回は教師が引っ張るときに「ながいね」などの声掛けを行いこれが“ながい”ということであると分かるようにした。長い、短い分かりかけている児童にはあえて紐の長さを同じくらいにしてしっかりと比べるように設定した。

4. 児童の様子・まとめ

絵本に興味をもって見聞きをし、読み聞かせの最後に蛇を伸ばすと楽しそうに見ていた。“長い”という感覚をつかむということをおおに大切にするために、蛇を伸ばしたあと腕を横に伸ばすジェスチャーをしながら「ながい」と言うことも大切にした。

活動を始めたころは、活動(2)は紐を引っ張ることだけを楽しんでいたが、繰り返すことで感覚的に“長い”ということをつかめるようになってきた。長さが分かりかけてきた頃に、2本の紐を机の上に置き、見て比べながら選べるようにした。繰り返すことで、しっかりと比べて長い物を選べるようになった。

“長い”がおおよそ分かりかけた頃に、“短い”の学習を行った。絵本『ながい ながい』を読んだ後に『みじかい みじかい』の読み聞かせを行った。2つの蛇を比べることで、“短い”ということを理解していた。活動(2)でも“長いとは違う方が短い”と考えて短い紐を選べるようになった。

最終的に、3名とも長い、短いの概念が分かるようになった。

5. まとめ

ゆりグループの児童にとって長さは少し難しい課題であったが、覚えるのではなく、遊びながら行ったので、楽しみながら繰り返し取り組めた。また、自分で“長さ”を体感することで、しっかりと理解できたように思う。

